

経営学部 経営学科企業経営専攻

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

経営学科企業経営専攻は、学生一人ひとりが個性を伸ばし、高い専門的知識を効果的に修得して、将来、民間企業などで幅広く活躍できる人材、起業家精神を発揮して事業を創出、継承、発展させることができる人材を養成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) 企業人としての幅広い教養と専門性

幅広い経営学に関する高い専門知識と一般教養を体系的に修得している。

2) リーダーに必要な課題解決能力

実社会のさまざまな経済・経営事象、社会や経済の動向も踏まえて、自ら論理的かつ創造的に思考し、適格な判断力や明快な説得力をもって物事に対処することができる。経営の諸問題を発見し、自らが身につけた専門知識を用いて正確に把握・分析し、仲間とともに協働しながらこれらを果敢に解決する能力を備えている。

3) 協働のためのコミュニケーション能力

多様な立場・考え方を認めたくえて、自らの知識や考えを他者にわかりやすく伝え、周囲を説得し、他者との協働を円滑に行える行動力およびコミュニケーション能力を備えている。

4) 社会の変化に対応できる自己実現力

高い倫理観を有し、和の精神に基づいて、さまざまな形で社会(組織)に貢献できる誠実な資質を備え、物事に関心を持ってかかわり、社会(組織)の変化に柔軟かつ的確に対応するとともに、自らのキャリアに関係する知識・スキルなどの修得に積極的かつ継続的に励み、生涯にわたり学び続ける意欲と姿勢を備えている。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

経営学科企業経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学の各領域について基礎分野から応用分野まで学年進行に合わせて専門科目を配置し、体系的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。また、学生一人ひとりの将来のキャリア形成を支援するために、インターンシップを中心とするキャリア開発科目に加えて、多様な公的資格取得を支援する科目も学年に応じて段階的に配置します。

1) 経営学の基本的知識から無理なく専門知識までの修得を支援します。

経営学科の根幹をなす「経営学基礎Ⅰ・Ⅱ」「マーケティングⅠ・Ⅱ」「簿記Ⅰ・Ⅱ」などの科目を軸に、「経営管理論」「流通論」「経営分析」「財務会計」「会社法」「企業倫理」などの科目を有機的に配置し、学年進行に合わせて無理なく段階的、体系的に編成します。3、4年次には専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とし、希望者は担任教員の指導の下、「卒業研究」論文に取り組みます。

2) 企業経営や職業に関する理解を深めるために、実践的な学びを支援します。

「実学マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」「ビジネスモデル研究」「地域ブランド研究」「美容・健康ビジネス論」など、より具体的に企業経営や職業に関する理解を深める科目を各年次に配置するとともに、ICT教育やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。

3) 公的資格の取得を支援します。

公的資格試験合格を活用したキャリア開発資質の向上を促進する科目として「ライセンスセミナー」を設け、公的資格試験に挑戦し、合格することで専門知識に加え、職業適性を開発します。公的資格試験として、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、販売士、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー、PC関連資格などの指導を行います。

4) キャリア開発に直結する指導をします。

企業経営専攻独自の準備講義「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において社会人としての資質向上支援を行い、「インターンシップⅠ・Ⅱ」で実際の就業体験をすることにより、適性にあったキャリア開発を促進するとともに、将来のキャリアに必要な専門知識を深める機会をすべての学生に提供します。

(2) 教育方法

1) 企業経営に関する科目全般の方向性として、従来の講義形式に加えて、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。

2) 学生自らが設定した目標達成のために、課題を発見し、能動的に研究・調査・分析・発表・議論する体験型授業を多く設けることによって、積極的かつ継続的にアクティブ・ラーニングを効果的に行います。

- 3) 学生のキャリア開発のために、経営学部独自のキャリア教育科目を設け、入学時から継続的に教授します。また、国内でのインターンシップ必修化に加え、海外インターンシップを実施し、グローバル社会にも対応できる職業人を養成することに加え、地域連携型授業をとおして地域社会で活躍できる人材の育成を推進します。
- 4) 公的資格（簿記、FP、販売士、PC検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）を取得するための授業をカリキュラムに体系的に配置することで、初級レベルから上級レベルまで学生が段階的に学修し、無理なく資格取得できる力を養成します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 企業経営に関する科目全般において、学生は Semester 開始時に学修目標を設定し、Semester 終了時、その達成度を自己評価（省察）します。
- 3) 各科目において習熟度を測るために学期末試験を行うとともに、科目の特色に応じて中間試験や小テストを行い、課題を与えて評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平素の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。
- 4) 国内外でのインターンシップ科目については、インターンシップ実施企業と連携して、実践可能な到達目標を設定し、教員、企業、学生の自己評価等多面的できめ細やかな評価を行います。
- 5) 資格取得を目標とする科目については、小テスト、中間・学期末試験、平素の受講態度等に加えて、外部評価となる資格取得の成果も評価の対象とします。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

経営学科(企業経営専攻)は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

1) 高等学校の教育課程を幅広く修得しており、将来、経営に関する知識や経験を企業人として社会で活かしたいという意欲があること。

〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

2) 企業・団体等への高い就業意欲や起業、事業継承に向けての意欲があり、そのために資格取得や国内外で実施するインターンシップに積極的かつ誠実に取り組む気持ちがあること。

〔求める要素：知識・技能、関心・意欲・態度〕

3) 高等学校等での課外活動やボランティア活動などの経験があり、グループ学習などでは、他者と協働しながら、課題をやり遂げ、発表・報告時には、論理的に説明できること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕

4) 入学後、建学の礎である和の精神の理解に努め、他者を思いやり、周囲との協働を重んじて行動できること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、協働性〕